

来週の「売り物」記事はこれ



2016年11月18日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

岡田武史が描くサッカーの未来

20日(日)



ストーリー

元サッカー日本代表監督の岡田武史さん(60) =写真= は現在、愛媛県「FC今治」のオーナーです。「Jリーグのクラブから『全権を任せる』というオファーがあった」そうですが、なぜJ1から数えて5部に当たる地域リーグのFC今治を選んだのか。きっかけは、W杯ブラジル大会・グループリーグで日本が敗退した2014年のことでした。日本サッカーの今後を考えていた岡田さんは、スペインの指導経験者から「日本にはサッカーのプレーモデル(形)がないのか?」と問われて驚きました。自由奔放にみえるスペインのサッカーですが、実はプレーモデルを15歳までに徹底的に教え込まれていたのです。小さい頃は自由に楽しんで、大きくなってから戦術を学ぶ日本とは正反対でした。これまでの指導法を根底から覆す「岡田メソッド」の実践の場がFC今治です。また、「物の豊かさより心の豊かさを大切にする社会」を企業理念にうたい、サッカーを媒介にして地方創生や国際交流にも取り組んでいます。



日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待下さい。

乳がん闘病ブログに広がる共感

小林麻央さんの「メッセージ」

夕刊特集ワイド 21日(月)



歌舞伎俳優・市川海老蔵さんの妻で、乳がん闘病中のフリーアナウンサー、小林麻央さんのブログが注目されています。「もしかしたら自分も」と、若い女性たちが相談や受診をする動きがあるほか、主体的に病気と向き合おうとする彼女の姿が共感を呼び、医師と患者の関係、あふれる情報との付き合い方などを見直すきっかけにもなっているようです。麻央さんのメッセージは社会をどう動かしたのか——に迫ります。

どうする長時間労働

くらしナビA面 25日(金)から

電通の新入社員が自殺した問題は、労働局が強制捜査に乗り出し、刑事事件に発展しました。政府は「働き方改革」に取り組むとしていますが、残業時間の長さを「やる気」とみる企業風土がはびこる日本で、長時間労働はなくせるのでしょうか。本給が低く、時間外手当を加えてやっとまともな金額になる賃金構造にも問題があります。現状と対策を現場から考えます。



原産地表示の読み方

くらしナビA面 23日(水)



加工食品の原料原産地表示が分かりにくいと問題になっています。例えば食パンは、米国産小麦を日本国内で小麦粉に加工していれば「小麦粉(国内製造)」と表示できることになりそうです。これが認められるなら多くの加工食品が「国内製造」となり、原産地表示の意味がなくなってしまう。「輸入、国産」と「輸入または国産」の違いについても解説します。

チームで養育する里親

くらしナビA面 24日(木)

親と暮らせない子供のうち、里親らの家庭で暮らすのは16.5%、全国で約6000人です。国は里親家庭での養育の割合を増やす方針ですが、親から受けた虐待のトラウマを持つ子も多く、里親は難しい対応を迫られています。11月は厚生労働省が定める「児童虐待防止推進月間」。里親と専門スタッフがチームで育てる「SOS子どもの村」の取り組みを紹介します。



桂米團治対談・今くるよさん おんなのしんぶん 21日(月)



桂米團治さんが各界の女性と対談する「粹な嘶で行きましょう」。今月のゲストは漫才師の今くるよさん=写真=です。くるよさんは人を誰かに例えるのが得意で、自身は「沢尻エリカ」。相方の今いくよさんを亡くして1年半。いくよさんが高校のソフトボール部時代を振り返るネタ「私ピッチャーでエース。くるよちゃんはキャッチャーでロース」の真実が明かされます。

東京電力福島第1原発の放射性廃棄物問題

「置き去り」の懸念ぬぐえず

科学面 24日(木)

東京電力福島第1原発の廃炉作業では汚染水問題が深刻化していますが、その浄化処理作業で出る放射性廃棄物も日々増加しています。処分方法はないため、第1原発の敷地内で専用の容器に入れて仮置きされていますが、容器の腐食や爆発などのリスクを抱えています。地元では「そのまま置き去りにされるのではないか」との懸念があり、対応が急がれます。

